

カコウコモリグモ *Pardasa nojimai* Tanaka

【選定理由】

内湾に面した河口付近の塩性ヨシ原のみ生息し、県内での生息地は極めて限られる。護岸工事・埋め立て・環境の悪化等によって減少の恐れが強い。

【形態】

体長雌雄 5~7mm。雄の背甲は一樣に黒色。雌は黒褐色で中窩は茶褐色。雌雄とも腹部背面は茶褐色で、黒褐色と白色斑が複数ある。歩脚は褐色で各節に長い刺を有する (Tanaka, 1998)。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市・豊橋市・田原市・刈谷市で確認された。

【国内の分布】

岡山県岡山市の標本を模式とし記載された (Tanaka, 1998)。現在は千葉県・東京都・静岡県・三重県・大阪府・兵庫県・島根県・熊本県で記録されている (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

海岸や河口付近の塩性ヨシ原に限って棲む。同じヨシ原でも海岸以外には生息していない。成体は 5~8 月にかけて見られ、ヨシ原内を素早く動き回る。6~8 月頃には、雌は卵のうを糸器に着けた個体や、子グモを背負う個体が観察される。同じ環境にはクロベンケイガニやベンケイガニなどカニ類も多数生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

2012~16 年の調査では、名古屋市港区稲永 (庄内川河口)、豊橋市杉山町 (紙田川河口)、田原市谷熊町 (田原湾) で確認された。近年、刈谷市境川河口では確認されていない。護岸工事や埋め立てなどによる生息地の環境悪化が主な減少要因と考えられる。

【保全上の留意点】

名古屋市港区稲永 (庄内川河口) では護岸補強工事により、ヨシ原の面積が狭くなり環境悪化が進み、個体数が激減している。塩性ヨシ原を保全すると同時に、環境美化に努める必要がある。

【引用文献】

Tanaka, H., 1998. A New Species of the Genus *Pardasa* (Araneae: Lycosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 47(2): 101-103.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊。

【関連文献】

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.222,248. 東海大学出版会, 神奈川。
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.245-246. 東海大学出版会部, 神奈川。

(緒方清人)



♀. 豊橋市杉山町 (紙田川河口), 2013 年 6 月 3 日, 緒方清人 撮影

県内分布図

